

## 「美方大納言」小豆の産地化

当普及センターは、10月中下旬に成熟する「美方白莢大納言」小豆（以下「美方大納言」）の産地拡大に取り組んでいる。関係機関と生産者からなる「美方大納言ブランド推進協議会」（以下協議会）を推進母体にして産地拡大を図るために、機械化一貫作業体系の確立と集団栽培の普及に取り組んだ。

### 1 はじめに

「美方大納言」の生産量は、かつては40t程度であったが、生産者の高齢化とともに漸減し、2009年度には10t（23ha）、農家売り渡し平均単価が870円/kgと低迷していた。

そこで、2011年度に協議会を発足させるとともに、「美方大納言小豆生産組合」も発足し、産地拡大に取り組むための体制を整えた。

また、地元実需者と連携し、イベントの開催や新商品開発に取り組み、新聞等への情報発信を盛んにして需要を喚起した。その結果、2013年度の生産量は17t（33ha）、平均単価は1,075円/kgまで回復した。

2011年度に実施したアンケートによると選別、収穫、中耕培土作業が産地拡大を阻んでいることが判明したので、これらの解消を協議会における活動テーマに取り組むことになった。

### 2 機械化一貫作業体系の確立に向けて

農業技術センター、北部農業技術センター、兵

庫県機械化協会、農産園芸課の協力により機械化一貫作業体系の確立に取り組んだ（写真1、2）。

この成果をもって「美方郡集落農業研究会」に働きかけ「美方大納言」の集団栽培を推進している。

### 3 今後の取り組み

#### （1）機械導入と機械利用組合の組織化

機械化一貫作業体系の導入を進めるに当たり、運営主体である機械共同利用組合の組織化に取り組む。また、中山間地域では狭小な棚田での栽培が多く、今後は小回りが利く管理機タイプの機械導入も検討する。

#### （2）調製施設のパワーアップ

現地にある調製施設は比重選別機と粒径選別機のみであり、生産者ニーズに対応するため色彩選別機の導入が必要である。今後事業効果を含めて導入するシステムを検討する。

小谷 定（新温泉農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0796-82-1161）



写真1 機械化一貫作業体系の実証ほを設置



写真2 脱粒機による収穫作業現地研修会

ひょうごの農林水産技術 No.187 (2014.11) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成26年11月15日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408